

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	単位認定者
統合分野	在宅看護論実習	2	90	3年次	7月	石井美香子
実習概要 対象を生活者としての視点から捉え、より健康へ QOL を維持・向上するためのトータル的な看護実践が求められている。在宅看護の対象者が、年齢・性別・疾患・症状別等の分類でなく、生活の場で療養しているすべての人であること、そして様々な社会資源を活用しながら、その人に合ったケアシステムを構築し、チームでケアを行っていく。						
科目目標 在宅療養者とその家族を理解し、在宅における看護職の役割と援助の実際を学ぶ。住み慣れた地域において在宅療養を支えるサービスを理解し、他職種の中で看護職の役割を学ぶ。在宅で生活している人々の現状を理解し、在宅での生活を支えるためのケアマネジメントの実際と看護職の役割を学ぶ。						
実習計画						
実習場所・時間		内容及び方法				
訪問看護 30 時間		受け持ち対象を一人決定し、その対象の看護展開を行い、在宅で生活する人々の健康の段階・発達段階に応じた生活・療養上の問題をアセスメントし、保健医療福祉サービスを理解し効果的な活動ができるよう関係機関の連携や多職種との調整し 問題解決に取り組む看護職の役割と、その基本的な態度を理解していく。				
在宅療養を支えるサービス 30 時間		医療施設と福祉施設、地域と在宅を結びつける中間施設として、高齢者の自立と住み慣れた地域において生活を継続させるための支援をしている介護老人保健施設を中心に実習を展開する。ここでは、医療と福祉のサービスを統合した包括ケアサービス、生活機能の向上を目的としたリハビリテーション、在宅復帰への支援、在宅での生活を継続させるための支援、そして地域に根ざした活動を理解する。				
在宅看護の連携 30 時間		「生活を支える」という視点で入院患者を捉え、在宅での療養上の指導を考える機会とし、入院から在宅まで切れ目のない、よりよいケアを提供できるような体制を調整する看護師の役割を理解する。また、対象者の自立した生活を支える介護予防の重要性や心身の機能維持に向けた活動の実際を学び、在宅での生活を継続するための保健医療福祉チームの連携や協働、その中での看護職の役割を考える。				
備考 実習施設は実習要項参照						